

8 こうますいせき 河増遺跡

所在地：福井市河増町

調査原因：土地区画整理事業

調査期間：令和4年1月～3月

調査主体：福井市教育委員会

調査面積：350 m²

時代：室町時代



位置図 (S=1/50,000)

遺跡について 河増遺跡は、福井市河増町・東今泉町に位置し、古墳時代(約 1,500 年前)から平安時代(約 1,300 年前)の集落跡として知られています。平成2年度に通称“さくら通り”延伸に伴って実施した市教育委員会の発掘調査では、平安時代の掘立柱建物跡等を確認しています。今回の調査は、平成2年度の調査地より南側で、荒川に近い部分になります。

主な遺構 調査は11カ所の調査区を設けて実施しました(図1参照)。遺構を検出した深さは、調査地の北側(4～9区)で水田面より約50cm下です。南側(1～3・10・11区)では約90cm下に遺構面が認められ、荒川に向かって低くなっています。

遺構は、調査地北側で井戸や柱穴が多く認められます。井戸は直径約2m、深さは遺構面より1.5mで底になります。井戸枠に桶や曲物を設けているものは2基のみで、他は素掘りで井戸枠はありませんでした。また、井戸枠の桶等は直径0.4～0.5mと小さく、井戸としては小規模なものでした。柱穴は直径20cm、深さ30cm程度の小型のものが多く、中心に直径10cm程度の柱の痕跡が残るものもあります。柱穴で大きいものは一辺40cmの方形のものが並び建物の痕跡と考えられますが、その規模は不明です。地形の低い部分では、柱穴や井戸等の生活に密接する遺構は希薄で、10区では畑の耕作跡と考えられる畝状の高まりが連続しています。

遺物は、中世と考えられる土師質の皿や越前焼の甕、すり鉢などが出土しました。

まとめ 今回の調査では、調査地の北側に集落、南側は畑などの耕作地として使用していたことが判明し、当時の集落の形成の一端を確認できました。(三澤繁忠)



写真1 井戸検出(4区)



写真2 井戸枠



写真2 畝跡検出(10区)

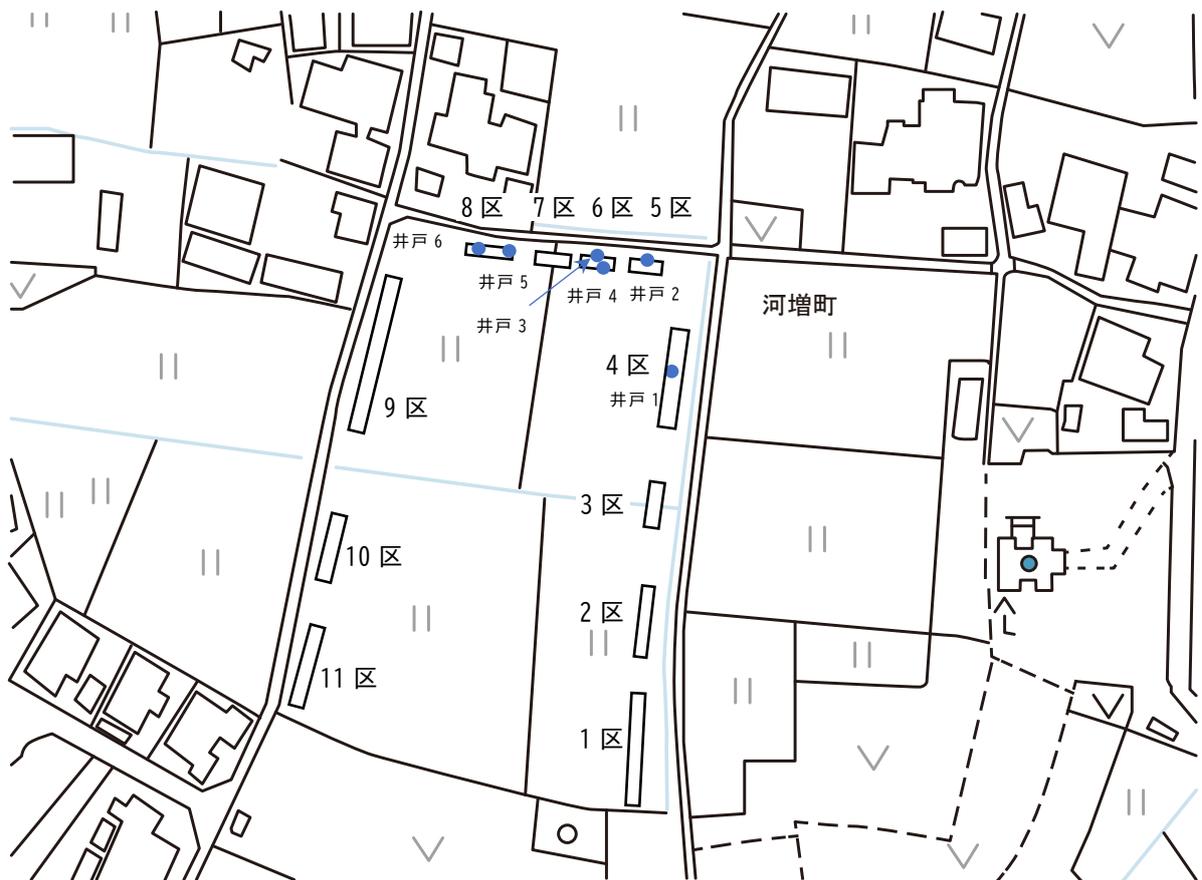


図1 調査区位置図と井戸の場所
●は井戸発見場所